

開講日	2026年春期 木曜日 18:30-20:00	講義場所	Zoom配信 + 対面講義(医学部棟11階 講義室A)
コースディレクター	名古屋市立大学医学部保健医療学科 リハビリテーション学専攻 ニューロリハビリテーション分野 教授 野嶋 一平		

科目概要 および 期待される 成果	<p>【概要】本講座では、リハビリテーション領域の最新研究を基盤に、運動回復のメカニズムを多角的に読み解きます。運動制御、神経ネットワーク、バイオメカニクス、運動生理学、精神認知活動など、国内外で急速に進む最先端知見を体系的に整理しながら紹介します。講義は15回のオンニ形式で実施され、各分野の専門家が臨床応用のポイントや研究を進めるうえで役立つTipsを提示。日々の臨床・研究に直結する「学び直し」として、医療従事者が現場で即活かせる視点を獲得することを目指します。</p> <p>【期待される成果】国内外の最新研究をリハビリテーションへ応用するための基盤的理解が深まり、リハビリテーションを科学的に捉える視点が習得できます。また、複数の専門家から得られる実践的なTipsにより、介入・評価、研究計画立案の質の向上、臨床判断や研究の推進に必要な「最先端を踏まえた思考力」が高まります。</p>
目標とする 資格	理学療法士、作業療法士、看護師、医師など医療専門職

サブカテゴリ	No	タイトル	講義概要	開講日	講師(所属)
L-1	1	研究疑問とデザイン	臨床研究の「種」である臨床疑問から研究疑問を作り出す構造化の方法、研究を進めるうえで必要な研究デザインの型について選択方法と概要について学びます。研究疑問の構造化および研究疑問に応じたデザインの選択の基礎力を養います。	4月9日	車谷洋 名古屋市立大学医学部保健医療学科 リハビリテーション学専攻発達障害学分野 教授
L-2	2	文献レビューの意義と方法	文献レビューの意義と研究全体における位置づけを整理し、効果的な論文検索、信頼性評価、知見の要約および統合、ならびに先行研究を批判的に検討する方法を解説します。あわせて、レビュー結果を研究課題や仮説構築へ結びつける思考過程を学びます。	4月16日	大星有美 名古屋市立大学医学部保健医療学科 リハビリテーション学専攻認知神経科学学専攻 教授
L-3	3	質的研究	臨床現場で生じる変化は多岐にわたります。本講義では、こうした複雑で多面的な変化を理解するために、事例報告を含む質的研究に着目し、臨床から得られる質的データを分析して、実践の改善にどのように活かすかを学びます。	4月23日	塩津裕康 名古屋市立大学医学部保健医療学科 リハビリテーション学専攻発達障害学分野 講師
L-4	4	シングルケースデザインの概要と進め方	1例または少数例の対象者において、介入の効果や有効性を評価するために用いられる本手法について、その概要と進め方を学びます。対象者数が限られる臨床現場において、EBMを展開していくための支援となることを目指します。	5月14日	草川裕也 名古屋市立大学医学部保健医療学科 リハビリテーション学専攻認知神経科学学専攻 准教授
L-5	5	測定尺度1	尺度が捉える構成概念と適用範囲を整理します。信頼性・妥当性を評価する際の要点を押さえ、臨床研究の目的に即した尺度選定の根拠を明確にします。	5月21日	佐藤大介・中川与四郎 名古屋市立大学医学部保健医療学科 リハビリテーション学専攻精神障害学分野
L-6	6	測定尺度2	測定尺度のスコアを介入効果として解釈する視点を扱います。測定誤差、実施条件、欠測への対応も含め、報告を想定した結果の記述・要約の型を習得します。	5月28日	佐藤大介・中川与四郎 名古屋市立大学医学部保健医療学科 リハビリテーション学専攻精神障害学分野
L-7	7	患者立脚型評価	医療者を介入せず報告されるアウトカムを患者立脚型評価と呼称します。得点は順序尺度として表現されることが多いですが、その変化を捉えるための解釈について学びます。	6月4日	飯塚照史 名古屋市立大学医学部保健医療学科 リハビリテーション学専攻 教授 (予定R8年4月より)
L-8	8	臨床における無作為化比較試験1	RCTのエビデンスレベルは高いですが、その実施には多くのハードルがあります。臨床試験としてのRCTの運用に向けた試験設計について学びます。1アーム研究、dose別の比較、パイロット研究、パイロット研究に基いたサンプルサイズ設計、そして本試験までの道筋について概説します。	6月11日	池田 崇・黒川由貴 名古屋市立大学医学部保健医療学科 リハビリテーション学専攻運動化学分野
L-9	9	臨床における無作為化比較試験2	臨床試験としてのRCTの運用に向けた準備の実態について学びます。リハビリテーションの治療的介入は、多くの場合、臨床研究法上で「特定臨床研究」に相当します。特定臨床研究の審査に向けた準備の仕方を学びます。	6月18日	池田 崇・黒川由貴 名古屋市立大学医学部保健医療学科 リハビリテーション学専攻運動化学分野
L-10	10	事例でみるバイアスの対策、研究データの質の管理	日常臨床の情報を用いた研究(後方視的調査)を行う時に生じるバイアスをイメージできることを目標とします。また、新しくデータを集めて行う研究(前向き調査)に関して、計画の立案時・実施中に留意したい点について共有します。講師がこれまでの論文作成で遭遇した具体的な事例を紹介しながら進めます。	6月25日	足立拓史 名古屋市立大学医学部保健医療学科 リハビリテーション学専攻心臓リハビリテーション科学分野 講師
L-11	11	症例報告から始めるリハビリ研究	日常臨床で得られた経験を学術的にアウトプットとして発信することを目的とし、症例報告の基礎から発表までの流れを学ぶ。症例報告に適した症例の見極め方、CAREガイドラインに基づく構成方法、研究倫理の考え方を理解し、臨床現場での経験を学術成果へとつなげる力を養う。	7月2日	加藤倫卓 名古屋市立大学医学部保健医療学科 リハビリテーション学専攻心臓リハビリテーション科学分野 教授
L-12	12	データ解析基礎1	Rの基本操作からデータ読み込み、前処理、可視化の基礎を学びます。さらに、時系列データを例にフィルタ処理や特徴抽出などの信号解析の初歩を実践。研究で扱う生体信号を分析するための基礎的な操作と考え方を身につけます。	7月9日	野嶋一平 名古屋市立大学医学部保健医療学科 リハビリテーション学専攻ニューロリハビリテーション分野 教授
L-13	13	データ解析基礎2	Rを用いた統計解析の基礎として、記述統計、相関、検定、などの主要手法を実データで実践します。解析結果の解釈や図示方法も扱い、研究論文作成や臨床研究に必要な考える力を養います。	7月16日	野嶋一平 名古屋市立大学医学部保健医療学科 リハビリテーション学専攻ニューロリハビリテーション分野 教授
L-14	14	幹細胞やモデル動物を用いた分子生物学的研究	臨床現場で抱く疑問や課題を解決する手段としての「基礎研究」のアプローチを学びます。幹細胞(iPS細胞等)やモデル動物を活用した病態解明、リハビリテーション効果の科学的検証(エビデンス構築)の最前線を紹介いたします。さらに、将来のオーダーメイド医療など、基礎研究が拓く医療の未来についても展望します。「因果推論」を学びます。	7月23日	竹中菜々 名古屋市立大学医学部保健医療学科 リハビリテーション学専攻生体構造学分野 講師
L-15	15	疫学研究における因果推論	実証研究を支える疫学的視点から「因果推論」を学びます。交絡、バイアス、反事実、DAGなどの基礎概念を整理し、観察研究から介入効果を適切に解釈する思考法を習得します。臨床データや研究計画に即した具体例を通じ、科学的根拠に基づく判断力の向上を目指していきます。	7月30日	藤田ひとみ 名古屋市立大学医学部保健医療学科 リハビリテーション学専攻生体構造学分野 教授